

令和 7 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	○思いやりの心や感動する心、挑戦する心をもち、協働して物事に取り組める生徒 ○確かな学力と広い視野をもち、主体的に課題解決できる生徒 ○高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し、充実した学校生活を送れる生徒 ○地域を活性化し、地域社会に貢献できる生徒 ○6年間の教育計画により、全教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな教育を実践する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・教育課程の特性を生かした授業時間数増、また、国語・数学・英語における少人数制学習やティームティーチング等により、基礎学力の向上を図り、個に応じた指導を充実させることができた。 ・ICTを活用した保護者との連携も積極的に行うことができた。今後は、よりシンプルで効果的なICTを活用した工夫を行っていく。 ・引き続き生徒の主体的な活動を積極的に推し進め、学級活動、委員会活動、学校行事等の活性化を目指す。 ・授業や総合的な学習の時間において、体験的な活動を積極的に取り入れ、生徒の主体性を伸ばしていく。 ・部活動は、限られた設置数の中でも、活発に活動できるように指導助言を重ねていく。 ・学校ブログ等による情報発信を積極的に行うことで、地域からの理解を高めることができた。ホームページ、アンケートなどのより効果的な広報広聴活動を工夫する。	基礎学力・授業の質の向上	・「単元テスト」の特性を活かし、学習習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 ・知識の習得をもとに、思考力・判断力を育み、「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図る。 ・授業力向上のため、教員間の相互授業参観と校内授業研究を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。	・各教員が教材研究に努めることで指導力を向上させ、それを相互授業参観で共有することができた。
	個に対応した指導の充実	・生徒の学習状況を適切に見極め、指導方法・指導内容を工夫し、少人数学習の特性を最大限に活かす。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施し、組織的対応を図る。 ・ICTの適切な活用により、個別最適な学びを推進する。	・生徒の実態を把握・共有し、学校全体での指導を展開した。
	進路意識・進路実績の向上	・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方や生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させると共に、悩みや不安に寄り添う時間とする。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・大学進学を踏まえ、基礎学力の定着を図りつつ、成績上位層への指導を工夫する。	・生徒一人一人との面談や保護者との面談をとおして、本人の希望する進路の実現に向け、適切な助言をすることができた。
	特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への主体的な参加を促し、学級活動や委員会の活動にも主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。	・生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組める環境が整備で

別紙様式 2 (中)

		・部ごとの活動目標を明確にし、目標に沿った生徒の主体的な活動を支援する。 ・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。	きた。 ・県大会や全国大会へ進出した部があった。 ・各部活動で生徒の主体的な運営ができた。
	マナーや規範意識の向上	・制服に係る議論等とおして、生徒が自ら考え、率先してルールやマナーを遵守しようとする態度を育てると共に、全職員が共通理解をもって指導にあたる。 ・異学年交流をとおして、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性や発達段階に応じた支援を図る。	・異学年交流を生徒主体で実施することができた。 ・会議等とおして、全職員が共通理解をもち指導にあたることができた。
	学校評価の推進	・自己評価、外部評価の内容を工夫し、適切な評価方法・評価対象等を検討する。 ・各種委員会や学校評価アンケートをとおして家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、保護者目線を基盤にして、学校活動を活性化させる。	・ホームページの充実、パンフレット等の配付による広報活動を積極的に展開できた。
	働き方改革	・時間外在校時間の職員月平均を 35 時間以内にする。 ・「働きがいを感じている」と答える職員 100%を目指す。 ・学校行事や教育活動の見直しを図り、目的と目標を明らかにした効果的で効率的な教育活動を実践する。 ・I C Tや校務支援システムを積極的に活用し、校務事務の効率化を図る。 ・日常的なコミュニケーションを大切にし、同僚性の向上と風通しのよい職場づくりをめざし、協働して業務に取り組める体制を整える。	・時間外在校時間の平均は 21 時間であり、目標を達成できた。 ・行事の精選および適切な運営により、負担なく効果的な教育活動が展開できた。
	授業改善	・相互授業参観を活性化させ、職員同士が授業の改善点について日常的に話し合い、授業改善を推進する。 ・生徒による授業評価における「この授業をとおして、知識や技能(技術)が身についた」、「この授業をとおして、考えたり表現したりする力が身についた」の質問項目で、肯定的評価 80%以上を目指す。	・生徒による授業評価の当該項目はそれぞれ 90%、87.5%と高い評価であり、目標を達成できた。

別紙様式 2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着	・学校図書館の機能を強化し、読書指導の充実を図る。	A	A	・観点に基づいた適切な自己評価能力の向上 ・探究的かつ主体的に文章を読み取る授業研究の継続
		・漢字、語彙の学習をとおして、表現に必要な基本的な知識を身につけさせる。	B		
	・生徒が主体的に言葉への自覚を高める学習の工夫	・多様な情報と自らの知識と経験を結びつけ、自分の考えをまとめ、表現する力を高める授業の工夫をする。	A		
		・ICT 機器を活用して、言語活動の充実を図る。	A		
	・授業改善	・探究的な学びのプロセスを意識した単元構成や課題の設定の工夫を行う。	A		
社会	・確かな学力の育成 ・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・各授業の単元において、課題を適切に設定し、課題解決的な学習を実践する。	A	A	・課題解決的な学習と基礎的内容の定着の両立 ・ねらいを達成するための手段としての効果的な ICT の活用 ・生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の改善
		・単元テスト等を活用して実態把握を適切に行い、基礎的内容の定着を図る。	B		
	・現代の社会への関心の高揚	・言語活動を適切に取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	A		
		・生徒の主体的な学習参加を促すため、教材を工夫し、「分かる授業」の展開を図る。	A		
		・ICT 教育のさらなる推進を行うために、パワーポイントやデジタル資料等、Chromebook の適切な活用を図る。	B		
		・大学入試共通テストを見据えた学力の育成について、指導方法の研究を適宜行い、表現力等の向上を図る。	B		
		・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政、人権等に関する諸問題を取り上げ、現代の社会への興味・関心を高める。	B		
	・授業改善 ・確かな学力の育成	・課題を多面的・多角的に考察する力の育成を図るため、ICT や各資料を効果的に使用することで、「分かる」授業となるように工夫する。	B		
		・各授業の単元において、課題を適切に設定し、課題解決的な学習を実践する。	A		
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・単元テスト等を活用して実態把握を適切に行い、基礎的内容の定着を図る。	A		
	・授業改善	・単元テストを実施し、定着度を把握しながら授業改善を図る。	A		
数学	・きめ細かな授業の展開	・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。	A	B	・生徒の主体的な活動を軸とした授業展開の工夫 ・課題の精選など、家庭学習習慣確立のための支援 ・基礎学力の定着による、高等学校へのスムーズな移行
		・1 学級を2 つに分けるなどして、丁寧な指導を行う。	A		
	・家庭学習習慣の確立と応用力の養成	・問題集等の活用により、家庭学習習慣の確立を図る。	A		
		・授業で問題演習の時間を確保し、発展的な内容も扱う。	A		
	・意欲をさらに高める指導	・難度の高い問題も提供し、生徒のさらなる意欲と思考力の伸長を図る。	A		
		・生徒の質問に、内容に応じて適切に対応する。	A		
	・授業改善	・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。	B		
		・中学・高校の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究し、授業に生かす。	B		

別紙様式 2 (中)

理科	・学力の向上	・単元テスト、総合テストを実施し、知識の定着を図りながら学力を向上させる。	A	A	・より生徒の主体性を引き出すことのできる実験・観察を含んだ授業展開 ・設備備品の整備によるより効果的な実験・観察の実現
		・科学的な思考力・判断力・表現力等を高めるため、考察・振り返りの時間を設定し学習活動を充実させる。また、レポートの作成・提出・評価による学力の定着を図る。	A		
	・設備、備品の充実	・設備備品を整備し、学習環境をより良いものにしていく。	B		
		・Chromebook を活用し、ICT の効果的な活用を行う。	B		
	・生徒の学習意欲の向上	・実験・観察による学習を充実させ、興味関心を深め、学習意欲を向上させる。	A		
		・課題設定を明確し、生徒が主体的に取り組む授業を展開する。	A		
音楽	・授業改善	・高校の教員と連携しながら、より専門的な教材研究を行う。	A	A	・鑑賞能力の向上 ・演奏のための技術の向上 ・表現方法の工夫
		・単元テストを実施し、知識の定着を図りながら学力を向上させる。	A		
	・音楽表現への意欲	・視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図り、音楽・音楽文化への興味関心を高め、音楽表現への積極的な取り組みを促す。	A		
	・表現の技能の習得	・様々な演奏表現を体験させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけさせる。	A		
美術	・主体的に取り組む態度の育成	・古典的な音楽から現代音楽まで幅広い音楽とふれあい、豊かな心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。	B	A	・作品づくりへの意欲向上 ・鑑賞の能力の向上 ・発表の機会の工夫
	・授業改善	・ICT の効果的な活用と、楽器を使用しての楽しい授業展開	A		
	・表現力の向上	・美術作品の良さや造形的な視点について理解し表現方法を創意工夫することで自ら創造的に表す態度を育てる。	A		
	・個々の技能を伸ばす工夫	・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。	A		
保健体育	・体力の向上	・積極的な作品づくりを促し、技能を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。	A	A	・運動量の確保 ・話し合う時間の確保と、運動の量と質の保持の両立
		・美術文化や生活の中の美術の働きを考えることをとおして、鑑賞の能力を高めるとともに、創造的な技能や美術を愛好する心情、豊かな感性を育む。	B		
	・授業改善	・積極的に発表する機会を設ける。	A		
	・個々の技能を伸ばす工夫	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B		
美術	・授業の充実	・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A	A	・運動量の確保 ・話し合う時間の確保と、運動の量と質の保持の両立
		・授業をとおして運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる力を養う。	A		
	・規範意識の醸成	・授業をとおして、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。	A		
	・副教材を利用した授業の工夫	・Google Classroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、分かり易い授業の展開を図る。	A		
	・授業改善	・Google Classroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、分かり易い授業の展開を図る。	A		
		・ジグソー法を取り入れ、教え合い、学び合いの活動時間を確保し、活発な意見交換などができるようにする。	A		

別紙様式 2 (中)

技術	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の伸長	・授業の中に身近な生活に関する情報を取り入れ、生活における課題を見つけることができる発問の工夫をする。	A	A	・基礎的な知識と結びついた実習や実験の授業展開の工夫 ・多角的なものの見方・考え方ができるような指導の工夫 ・情報活用能力の向上
		・思考ツールなどを活用した対話的活動を多く取り入れ、生徒が多角的に課題を捉え解決できるようにする。	A		
	・見通しをもった学習のための学習展開	・基礎的な技能や知識を事前に習得したことを実習や実験につなげ、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。	A		
		・題材における学習計画を伝え、学習内容の見通しをもたせることで理解力の向上につなげる。	A		
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最低限心得ておくべき資質を身につけさせる。	B		
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心をもたせるだけでなく、情報化の負の部分にも配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を育てる。	A		
家庭	・授業改善	・グループ活動の時間を確保し、活発な意見交換などができるようにする。	A	A	・生活に関する基礎知識と技術の習得 ・生活情報を収集し、生活に活かす力の向上
	・基礎的な知識と技術の習得	・座学と実習をバランス良く行い、生活に関する基礎知識と技術を習得できるようにする。	A		
	・生活の向上を図る実践的態度の育成	・生活に関する情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる力を育成できるようにする。	A		
英語	・授業改善	・実習の際は個別対応を充実させる。	A	B	・単語テストを活用した学習習慣の確立 ・生徒の英語使用を増加させる活動の導入 ・生徒の状況に応じた習熟度別学習の実施
	・Google Classroom を活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立	・主体的に生徒が学習できるよう、Google classroom の活用。	A		
		・予習や宿題、課題テスト及び単元末テスト等への ICT の活用。	A		
		・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALT の活用。			
		・定期的な英単語テストの実施による、学習の習慣化。			
		・学年末に TOEIC BRIDGE を全員受検し、到達度を確認。			
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・少人数制学習の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる 4 技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫。	B		
		・補習や classroom、Classi 等をとおして、個別対応を充実。	A		
		・学力推移調査を実施し、個々の英語総合力を判断。	B		
道徳	・授業改善	・少人数や習熟度別学習により、弱点部分を補填・強化できるよう事後の指導。		A	・授業における学習活動の工夫 ・生徒の発達段階を把握した
	・目標達成のための授業展開	・異学年交流による、英語を使う目的・場面・状況の設定。	B		
	・「聴く・話す・読む・書く」の 4 技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践。				
道徳	・自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めるために、多様な価値観にふれる学習活動をとおして、道徳実践力を育てる。		A	A	・授業における学習活動の工夫 ・生徒の発達段階を把握した
	・道徳資料の工夫	・日常生活や社会の出来事など、身近な出来事を教材化し、生徒が積極的に意見を交	B		

別紙様式 2 (中)

		換できるように工夫し、道徳的価値を十分に考えることができるようにする。			上での授業展開
	・教育活動全体をととした道徳	・全教育活動をととして道徳教育を推進するとともに、生徒の発達段階や特性等を教員が適切に把握し、指導内容の重点化を図る。	A		
	・授業改善	・生徒が多様な価値観にふれることができるような学習活動の工夫。	A		
総合的な学習の時間	・社会や地域への興味関心の醸成	・探究的な学習を推進するために、生徒の知的好奇心を刺激し、銚田市や自分の住む地域を積極的に調べようとする意欲向上を図る。	A	A	・実践活動の活性化 ・地域との信頼関係の土台となるボランティア活動の推進
	・課題の解決に必要な知識及び技能の習得	・AAR サイクルを基に探究の過程を学び、課題の設定や情報の整理・分析といった技能の習得を図る。	B		
	・社会や地域活動への参画	・探究的な学習をととして調べたことやその研究を実践に生かすため、自分の地域の活動に積極的に参加し、社会参画しようとする態度を育む。	A		
教務	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。	A	A	・よりよい日課の提案・調整 ・各分掌との緊密な連携による遅滞ない学校運営 ・教員間の授業の相互研究推進
	・充実した授業のための支援	・各教科と連携し、生徒の学力や希望する進路に即した教育課程を研究し、編成する。	A		
		・教員間の相互授業参観や校内授業研究を推進し、授業の質の向上に努め、生徒の学力向上につなげる。	B		
	・行事等の円滑な運営	・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。	B		
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスター、プロモーション用動画の作成	B	A	・学校公式ウェブページの更新頻度増加 ・学校評価アンケートの分析による教育活動の改善
		・進学フェアへの参加	A		
	・本校に対する外部の声の広範囲からの収集	・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営 ・学校公式ウェブページの内容の充実 ・学校評価アンケートの実施、集計、分析	A		
生徒支援	・生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 ・基本的生活習慣と規則を守る態度の育成 ・各学年及び各部所と連携した生活指導の推進 ・高等学校への接続を意識した生徒指導の推進	生活関係		A	・生活に関する物事への当事者意識の醸成 ・制服等、ルールに対するより活発な意見交換の支援
		・制服の検討等をととして、どのような服装をすべきかについて、生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	B		
		・校則の見直しをととして、学校生活について生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	A		
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。	A		
		・挨拶の励行を徹底する。	B		
		・さわやかマナーアップ運動をととして、マナー・モラルの向上を図る。	A		
		・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。	A		

別紙様式 2 (中)

		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を生徒が自主的に行えるよう啓発を図る。	A		
		・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるように啓発を図る。	A		
		・校内巡視を実施し、生徒の様子を直接把握するよう努める。	A		
		・いじめを絶対に許さない姿勢といつでも相談できる受容的な姿勢を教員間で共有し、生徒に発信し続ける。	A		
	・非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組	交通関係			
		・公共交通機関における利用方法に関する指導	A		
		・交通安全講話の実施	A		
		・自転車点検及び交通安全指導の実施	A		
		問題行動未然防止対策			
		・ハートフルアンケート（いじめ被害調査）を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。	A		
		・インターネット利用講座の実施とスマホルールづくり等の保護者への協力を依頼する。	A		
		・長期休業前に全校集会を行い、生徒支援部が話をすることで問題行動等の未然防止を図る。	A		
		・薬物乱用防止教室を実施する。	B		
	・スクールバスの円滑な運行と安全確保	・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。	A		
	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報	A		
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討	A		
		・学年会議での情報収集	A		
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A		
	・適切な支援の実施	・支援が必要な生徒との面談・必要に応じた保護者との面談	A		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助	A		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整	A		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議	A		
		・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	A		
進路指導	・体系的な進路指導の実施	・中高一貫教育の利点を活かし、6年間を見通した上で、高校での学習を意識した進路指導を行う。	A	A	・高校での学習を踏まえた進路指導
		・1学年では、学習習慣を確立させるとともに、手帳等を活用して、計画的かつ自律的に学習を進められるよう支援する。	A		・手帳を活用した学習習慣の確立

別紙様式 2 (中)

		・2 学年では、課題解決型の自律的な学習方法を身につける等、生徒の学習の質が向上するよう支援する。	A		・課題解決型の学習方法の定着
		・3 学年では、生徒たちに高校での学習や生活リズムを意識させ、学習の質や意欲がさらに向上するよう支援し、高校への円滑な接続を目指す。	A		・高校の学習や生活リズムを意識高揚
	・学習習慣の確立 （平日の最低家庭学習時間学年＋1 時間の確保）	・家庭での学習習慣を確立させるため、手帳やクラッシー等の学習記録機能を活用するなどして、日々の取り組みを可視化させる。	A		・手帳やクラッシーの機能的活用
		・学習実態調査の実施（年3 回）	A		・継続的学習実態調査
	・効果的な学習指導法の研究と実践	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付）	A		・授業評価の実施
		・先進校視察等、研修の機会を設け、指導法等の研鑽に努める	B		・視察研修の実施実施
	・進路情報の収集と提供	・生徒面談をとおして、生徒の動向の把握に努める。	A		・生徒の動向把握
		・研修会等に参加して、情報の収集に努める。	A		・情報収集
		・進路資料、情報誌の配付などをとおして、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	A		・生徒・保護者に対して適切な進路情報提供
	・学力向上	・各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して指導を行う。	A		・模試結果から、課題の情報共有
		・各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	B		・家庭学習の習慣化
	・学習環境の整備	・生徒の学力の到達度に応じて支援体制を整える。	A		・支援体制を整備
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容のひとつひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。	A	A	・附属中独自の行事の定期的な開催
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	A		・活動の少ない委員会への機会の創出
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識をもつとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。	B		・部活動数の調整に向けた職員間の共通理解
	・学級活動の充実	・学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動をとおして協調性や団結心を養う。	A		・レクリエーション等のための時間の確保
	・キャリアパスポートの活用	・生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるような助言・支援を行う。	A		・Classi の有効活用 ・記録する時間の確保

別紙様式 2 (中)

保健安全	・保健衛生習慣の確立	・定期健康診断を行い、適切な事後措置を実施。	A	A	・反省を生かした検診計画の調整、立案とその実施 ・事後措置の計画的な実践 ・清掃活動による美化の推進と校内巡視による安全点検の実施 ・環境衛生検査の適切な実施と事後措置 ・欠席情報の把握とシステムの入力、活用 ・スポーツ振興センター保険の有効活用とシステム変更の周知
		・保健室の円滑な運営と健康的な生活習慣を育むための保健指導を実施。	A		
	・清掃活動の徹底	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化）を適切に実施。	A		
	・防災意識の高揚	・備蓄品の点検・活用と、防災訓練の実施。	A		
	・環境衛生の整備	・定期環境衛生検査の実施と日常の巡視や清掃による環境衛生の保持、整備。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・クラッシーと健康観察板による欠席、健康状況の把握と、欠席情報システムへの入力を実施。	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・保険の周知に努め、教員が連携して学校生活上の受傷者を把握し、保険を有効に活用。	A		
図書館	・教育課程等の展開に即した資料の充実	・図書館部予算の的確な執行。	A	A	・図書廃棄の推進および図書資料の更新 ・書架整理の推進 ・レファレンスサービスの充実 ・委員会活動を通じた広報活動の工夫 ・読書会等を通じた生徒の読書活動の推進
		・購入希望図書の調査を実施による、図書の貸し出しと図書館の利用機会の増加。（教員・生徒対象）	B		
		・より良い図書を選定するための情報収集。	A		
		・探究活動に対応した選書をし、授業で利用できる資料の充実。	A		
	・読書、鑑賞等をととして教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施。	A		
		・読書会をととした、読書に対する興味・関心の向上。	B		
	・図書館の正しい利用の態度を養い、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度の育成。	A		
		・各学年・高校とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序の保持。	A		
	・生徒図書委員活動をととして、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活性化。	A		
		・図書館総選挙の投票集計と結果作成・学校行事における図書館の展示等に、生徒図書委員の関わり強化。	A		
		・バーコード管理システムを活用し、入力・装備の整備等を実施。	A		
渉外	・学校と家庭の交流の充実	・学校行事への保護者参加率向上による、学校における教育活動の理解進化、	B	B	・さわやかマナーアップの実施
	・状況に応じた事業の遂行	・関係者や関係部署との念密な打ち合わせによる、各種総会や役員会、大会などの事	A		

別紙様式 2 (中)

		業遂行				・文化祭グッズ製作の改善 ・保護者、生徒会、教員との連携
	・さわやかマナーアップ運動の実施	・保護者・生徒支援部・特別活動部と連携した、適切な活動の実施	B			
1 学年	・基礎学力の向上	・英語、数学、国語での少人数および複数教員による授業の展開。	A	A		・学校生活でのオン、オフの切り替えへの意識改善 ・学習習慣が身につかない生徒への個別の手立て
	・家庭学習の習慣化	・授業、復習の重要性を認識させ、Classi や手帳を活用した家庭学習時間の可視化を図りながら、毎日の学習習慣の確立を促す。	A			
	・進路についての意識	・個人面談、講演会等のキャリア支援をととして、自己理解・社会理解を促進し、自己実現の素地を養う。	B			
	・基本的生活習慣の定着	・「集団の規律を守り、秩序を保つ」という意識をもたせる。その実現を図るために、挨拶、整理整頓、清掃及び時間の管理について指導を行う。	B			
	・生徒への対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、情報を迅速に共有し、学年スタッフ、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努め、組織的に生徒を支援する。	A			
	・課外活動の促進	・部活動、校外での学習活動等への参加を勧め、様々な自己表現の機会を活用して、内面の成長を促す。	A			
2 学年	・学力の向上	・英語、国語、数学での少人数及びチームティーチング授業を充実させ、必要に応じて習熟度別学習を行うなど、基礎・基本の定着を図ることに努める。 ・模試をととして、自身の実力を把握し、普段の学習にフィードバックさせる。	A	A		・模試の振り返り等をととした生徒の基礎・基本的な学力の向上 ・個々の生徒に対する適切な対応および支援
	・自主学習の習慣の強化	・学習サイクルの定着の重要性を共有し、自主学習の習慣をさらに強化できるよう、支援に努める。	B			
	・進路意識の向上	・個人面談、進路講演会等のキャリア支援行事をととして、自己理解・社会理解に努め、自らの進路を考える時間を確保し、進路に向けた生徒自身の意識の向上を図る。	A			
	・基本的な生活習慣の定着	・個々が快適な環境を作るための責任をもつという意識の醸成に努め、集団の規律を守ること、集団生活に必要なことをひとつひとつ身につけられるよう支援する。	B			
	・個々の生徒への適切な対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に学年で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。	A			
	・課外活動の促進	・部活動、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。	A			
3 学年	・高校入学後につながる学力の維持と人間力の育成	・授業中心の学習活動をととし、授業の大切さを理解させる。高校進学後も学力を維持し伸ばしていけるように、確かな基礎学力・表現力を身につける指導を実践する。	B	A		・基礎学力の定着 ・社会・理科の復習の徹底 ・進路を考える雰囲気醸成 ・手帳等を活用した学習計画の指導の徹底 ・点数にとらわれない自己の
		・日常生活での自己管理を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化と自学自習できる力を育む。また、学習と並行して進路についても考えを深め、将来の希望進路を考えながら学習に打ち込む生徒を育成する。	B			
		・学力の向上を図るための努力を惜しまず、全国模試を定期的に受験させ、全国レベ	B			

別紙様式 2 (中)

	・進路希望の実現に向けた細やかな指導	ルでの学力を客観的に把握させるとともに実践的学力を養う。		目標設定とその達成への手立て ・多方面の教員からの声掛けや支援の充実 ・データ分析と共有 ・生徒の実態に合わせた活動の創出 ・生徒主体の行事運営の推進 ・日々の主体的な学級活動環境の整備
		・進路目標の実現に向けて、個々に応じた面接指導を頻繁に展開し、目標の確認と反省、学習計画の見直し等を図り、きめ細かな進路指導を実施する。	A	
		・詳細なデータ分析を基に、どの生徒に何を求めているかについて、関係する学年スタッフ間で共有し、生徒に提供する。	A	
		・校外のセミナーやボランティア活動等への積極的な参加を勧め、自己を見つめ直し、社会の一員としての自我を育む。	A	
	・銚田一高附属中生としての誇り・自覚の高揚と地域・社会の中核となるべき人間の育成	・学校行事に積極的に参加し、人との関わりをとおして、コミュニケーション能力、問題解決能力等を育む。	A	
		・様々な活動の中で、常に銚一附属中のよりよき文化と校風の創造者としての自覚をもたせ、リーダーシップを発揮できるよう指導する。	A	

※ 評価基準： A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分